

2023年6月期 第2四半期 (中間) 連結決算説明資料

Abalance株式会社
東証スタンダード (3856) / 2023年2月24日



Abalance(株) 会社概要

| | |
|-------------------|---|
| ■ 会社名 | Abalance(株)(グループHC) |
| ■ 設立年月日 | 2000年4月17日 |
| ■ 事業 | グリーンエネルギー、建設機械、IT、ヘルスケア(光触媒) |
| ■ 主な子会社 | WWB、バローズ、VSUN、日本光触媒センター |
| ■ 海外子会社 | ベトナム『VSUN社』の連結化(2020/10) ・日系最大の太陽光パネルメーカー(能力5.0GW) ・ハノイ証券取引所(UPCoM)へのIPO対応中 ・その他の外国証券市場IPOも、併せて検討中 ・米国向け輸出拡大 |
| ■ 持分法適用関連会社 | 明治機械株式会社 |
| ■ 本店所在地 | 品川区東品川2-2-4 天王洲ファーストタワー16F |
| ■ 代表取締役社長 | 光行 康明 |
| ■ 市場情報 | 東証第二部(2018/10)⇒スタンダード(2022/4) |
| ■ 決算月 | 6月 |
| ■ 総資産(2022/12末) | 1,187億円 |
| ■ 純資産(2022/12末) | 135億円 |
| ■ 従業員数(2022/12末) | 国内341名(含、関連会社)、海外VSUN社1,500人 |
| ■ 連結売上高(2022/12期) | 1,120億円 |
| ■ 今期見込み(2023/6期) | 売上高1,750億円(上方修正:1,100億円⇒1,750億円) 経常利益73億円(上方修正:28億円⇒73億円) |

当社の太陽光発電事業の強み

(1) ワンストップ・ソリューションの提供

ーグループ内(ベトナム)に、パネル自社工場があり、垂直型ワンストップソリューションを展開
 ーサプライチェーンに、パネル製造機能を持つ他社事例は無し

✓ **自社工場: 生産能力で日系首位**



(2) 豊富な事業実績

ーグリーンエネルギー事業実績

①自社保有発電所 (**140MW**)、②発電所・設備開発 (400MW)、③自社製造パネル (2.9GW)
 ⇒ **合計3.5GW**

ー自社保有目標⇒2030年までに、**1GW**(国内外計)

ーソーラーシェアリングへの取組み強化⇒今後、明治機械(株)との協業で更なる拡大を企図

(3) ベトナム工場 (VSUN社) における高品質モジュールの提供可

- EcoVadis (エコバディス, 本社: 仏) *より2022年度 Bronze Medal受賞
 - *世界の75,000社以上の参加企業のうち、第64位にランクイン
 - *(グローバルサプライチェーンに対するESGに関わる世界的な評価機関)
- Tier1 PV Module Maker List (Bloomberg社による) に計上
- PV Evolution Labs (PVEL) *より、「PVモジュール信頼性スコアカード」(2022年度版) において、「トップパフォーマー (Top Performer)」の一社に認定
 - *(太陽光発電に特化したモジュール信頼性・性能試験機関)

(4) 脱炭素エネルギーへの変化に、いち早く対応した体制へ

- GX (グリーントランスフォーメーション) への対応
- PPA事業強化 → WWB社における「脱炭素法人事業部」の立ち上げ

(5) 当社独自ブランド「MAXAER」の豊富なラインナップ

- Maxar LIGHTシリーズ (軽量モジュール (ガラスの代替としてフッ素樹脂を採用) 等)

(6) モジュールのリユース・リサイクル事業 立ち上げ

- PV Repower社設立 (2021年3月)、モジュール廃棄問題に対応

(7) 新技術の開発

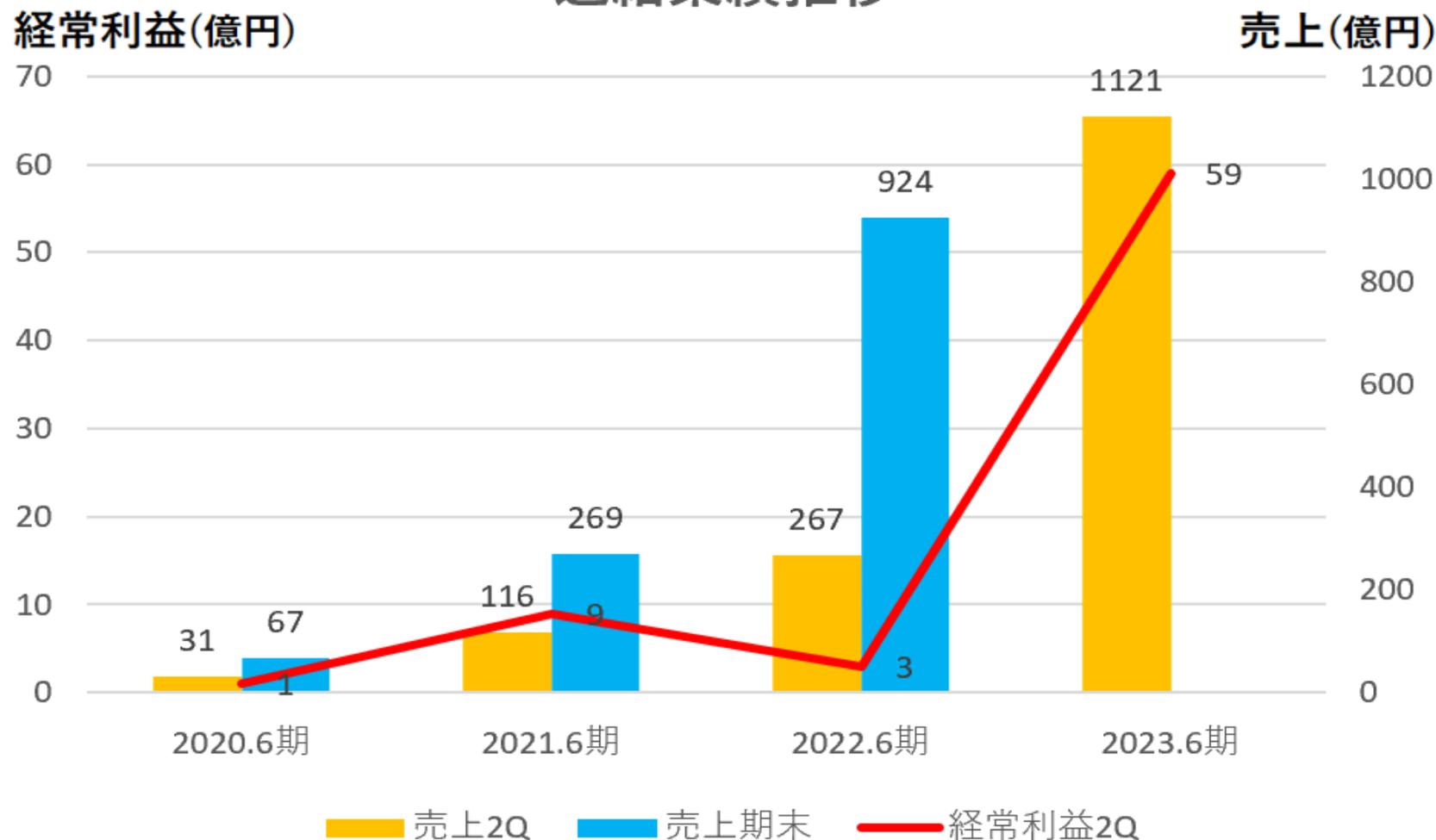
- 東大大学院工学系研究科*田中准教授 (当社技術顧問) との協業による再エネ認証システム、需給調整システム検討他
 - *NIKKEI脱炭素委員会メンバー

連結決算ハイライト【2023年6月期/2Q】

■ 前年同期比、連結売上高：約4.2倍、経常利益：約17.2倍

- 【増収要因】世界的な再エネ需要、地域港湾の停滞緩和
- 【増益要因】価格転嫁、輸送運賃ピークアウト、売電増

連結業績推移



通期連結業績の上方修正(当期2度目)

- VSUNにて、欧米向けのパネル販売が、想定を超えて推移
- 価格転嫁、コンテナ運賃のピークアウト等により、大きく利益改善

(単位:億円)

| | 22/6期 | 23/6期 | | |
|-----------|-------|---------|-------|-------|
| | 実績 | 当初予想 | 再修正予想 | 当2Q実績 |
| 売上高 | 924.3 | 1,100.0 | 1,750 | 1,121 |
| 営業利益 | 16.9 | 29.0 | 70 | 52 |
| 経常利益 | 15.1 | 28.1 | 73 | 59 |
| 親会社株主帰属利益 | 8.6 | 12.8 | 34 | 23 |

👉 第4工場は、2023年1月以降、フル操業状態ですが、立上げから日が浅く、合理的な見込みが一部困難な面があるため、再修正予想に、第4工場フル操業に伴う影響額は織り込んでおりません。

👉 VSUNの業績が極めて好調に推移している状況を受けて、業績が更に上振れることを確認し得た場合、速やかに開示

主力セグメントの当中間業績について

太陽光パネル製造事業(VSUN)

- 売上高、セグメント利益 大幅増へ
- 欧米向け 太陽光パネル販売、想定を超えて推移
- 地域港湾の停滞緩和化、出荷状況も改善
- 価格転嫁、コンテナ運賃のピークアウト→利益率の向上

(単位:億円)

| | 22/6期(2Q) | 23/6期(2Q) | 前年同期比 | 差額 |
|---------|-----------|-----------|--------|------|
| 売上高 | 227 | 1,074 | 約4.7倍 | +847 |
| セグメント利益 | 2 | 46 | 約20.7倍 | +44 |



グリーンエネルギー事業(WWB,パローズ)

- スtock型ビジネス(自社保有化)の推進
- 茨城県内 太陽光発電所を買収(初年度収入予測:約3.5億円)
- 神栖太陽光発電所(茨城県)の稼働開始
- PPA事業者として、ノンフィット案件への取り組み

(単位:億円)

| | 22/6期(2Q) | 23/6期(2Q) | 前年同期比 | 差額 |
|-----------|-----------|-----------|-------|----|
| 発電所販売・物販等 | 26 | 28 | +10% | +2 |
| 売電・O&M収入 | 10 | 16 | +53% | +6 |
| 売上高計 | 36 | 44 | +22% | +8 |
| セグメント利益 | 6 | 9 | +51% | +3 |



【WWB 神栖太陽光発電所】

【参考】グリーンエネルギー事業 開発事例



角田市太陽光発電所(宮城県)/(DC):約18.3MW



花畑太陽光発電所(群馬県)/(DC):約3.6MW



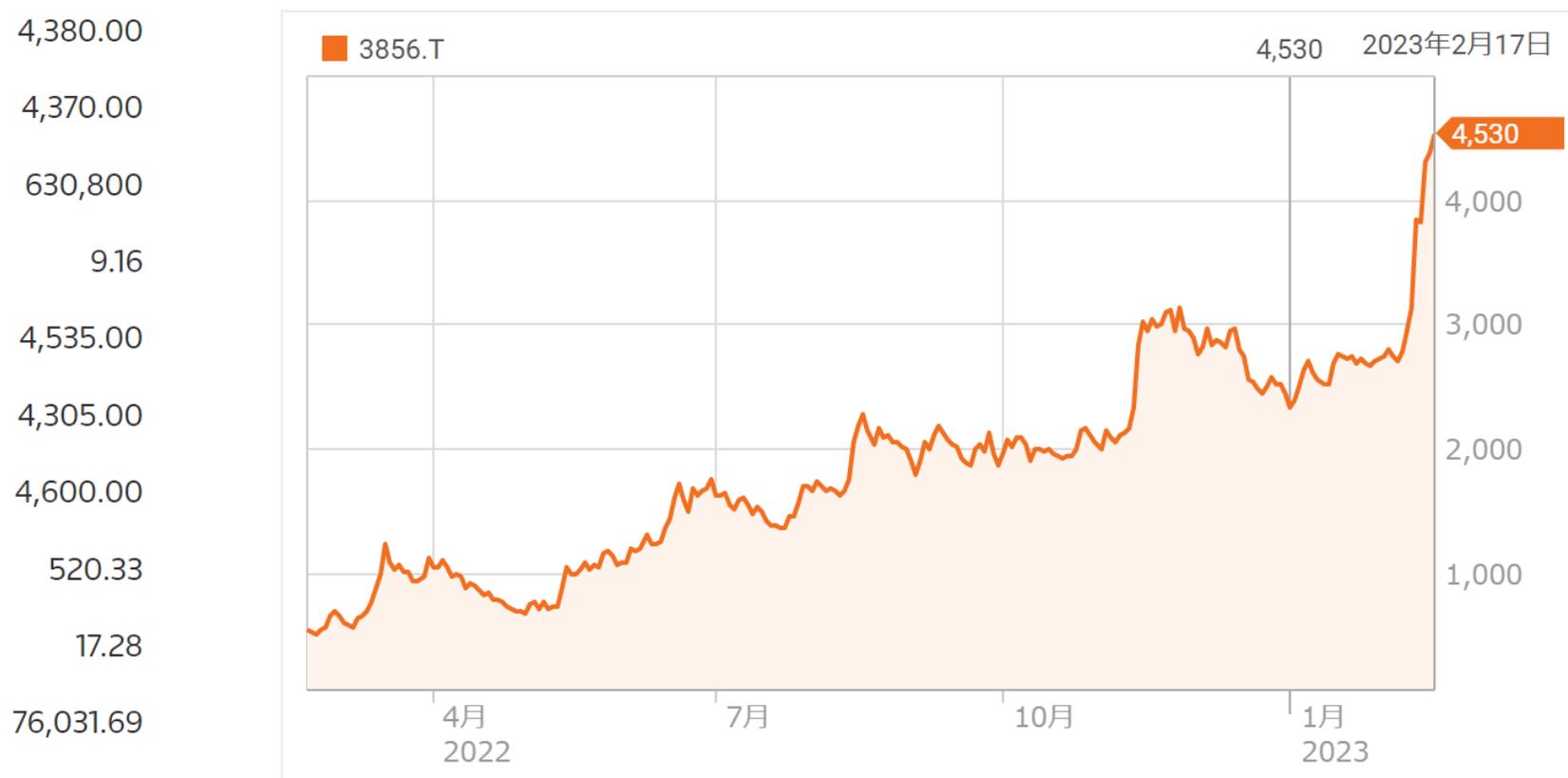
宮之浦太陽光発電所(鹿児島県)/(DC):約2.8MW



Dai Dung An Ha Factory roof top
(Thang Long Power)/Vietnam

【参考】株価チャート(証券コード:3856)

- ◆ グループ事業は成長過程、バリュエーション拡大期と認識
⇒ IR専門家 新たに起用(執行役員/IR広報室長 堀内信之)



REUTERS社 株価チャート(2023年2月17日終値)

【Topics①】第4工場竣工(VSUN)

- 第4工場(パネル製造)は、2023年1月より順次、稼働開始
- 年間生産能力: 2.6GW → 5.0GW (参考)原発1基分:1GW

日系パネルメーカー首位(Tier1リスト)

【第4工場 外観/ベトナム国】



【工場内部の様子】



【Topics②】セル工場建設(VSUN)

● 太陽光パネル製造の主要部品セル、自社生産化へ

- プロジェクト全体：年間生産能力6GW
- 投資総額(予定)：約3億US\$ (394.5億円*)

(注釈) MUFJ「外国為替相場一覧表」(2023年2月10日9時更新)に掲載のTTM(仲値)131.50円/US\$に基づき算出

● まずは、第1フェーズを実行(2023年10月 完成予定)

- 部品内製化によるコスト削減→利益率 大幅向上へ
- サプライチェーンの垂直的な川上強化
- 各国の輸入規制等の市場動向への対応

| | |
|-----------|----------------------|
| (1) 設備投資額 | 約1.8億US\$ (236.7億円) |
| (2) 所在地 | ベトナム国 フートー省錦溪工業団地 |
| (3) 敷地面積 | 約13.42ヘクタール |
| (4) 生産能力 | 年間生産能力:3GW |
| (5) 製造品目 | 太陽光パネル製造の主要部品となるセル生産 |
| (6) 決済方法 | 自己資金及び借入金により充当 |

(注釈) MUFJ「外国為替相場一覧表」(2023年2月10日9時更新)に掲載のTTM(仲値)131.50円/US\$に基づき算出

VSUN Cell 工場 位置図



アクセス

- ・ノイバイ国際空港から約84km
- ・ハノイ市中心から約110km
- ・VSUN第一工場から約130km
- ・VSUN第二工場から約130km
- ・VSUN第三工場から約134km

サプライチェーンの流れ

フートー省にて、セル生産
↓(搬送)
バックザン省, バクニン省の
パネル生産工場へ

セル工場建設（第1フェーズ進行中）

セル工場“6GWプロジェクト”のうち、
第1フェーズ（3GW）は、2023年10月 完成を予定



(*現在、建設工事が着々と進行しております。)



👉 第2フェーズのPJ進行は、状況が分かり次第、開示する予定

中期経営計画の再上方修正(2度目)

2023年6月期 通期予想を再上方修正 (2023年2月13日付)

2024年6月期中計目標値も、併せて再上方修正 (2023年2月24日付)

| 中計対象期間→ (単位:百万円) | 2022/6期 | 2023/6期 | 2024/6期 | |
|---------------------|---------|--------------------|--------------------|---------------------|
| | 実績 | 修正予想 2023/2/13付 | 修正目標 2022/9/28付 | 今次再修正 2023/2/24付 |
| 売上高 | 92,435 | 175,000 | 150,000 | 251,800 |
| パネル製造事業(=VSUN) | 81,775 | 165,000 | 138,000 | 239,000 |
| グリーンエネルギー事業(フロー型) | 8,009 | 6,700 | 7,600 | 7,800 |
| グリーンエネルギー事業(ストック型) | 2,651 | 3,300 | 4,400 | 5,000 |
| 営業利益 | 1,697 | 7,000 | 4,500 | 15,800 |
| 経常利益 | 1,510 | 7,300 | 3,800 | 15,800 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 867 | 3,400 | 1,800 | 8,000 |
| 1株当たり当期純利益 | 158円33銭 | 204円55銭 | 108円29銭 | 481円29銭 |

👉 2023年10月 竣工予定のセル工場稼働後の利益率改善等の影響は、稼働後、合理的な将来見通しが可能となった時点で、改めて目標値の見直しを行います

更なる企業価値向上への重点施策

| | | |
|----------------|------------------------------|--|
| 主力事業の推進 | 太陽光 パネル 製造事業 | <ul style="list-style-type: none"> ● <u>第4工場の本格稼働(年間生産能力2.6GW→5GW)</u> ● <u>セル工場の竣工(第1フェーズ)⇒更に、第2フェーズへ</u> ● <u>利益率の更なる改善・向上</u> ● <u>ベトナム市場のほか、他の海外市場を含めたIPO推進</u> ● <u>自家消費案件(ノンフィット,ノンファーム)、ソーラーシェアリング推進</u> ● <u>再エネ関連企業に対するM&Aの実行(事業拡大の加速)</u> ● 水素商品の開発、事業の推進 ● 大手企業・総合商社等との業務提携,戦略的パートナーシップ |
| | グリーン エネルギー 事業 | |
| 経営管理 | 経営・財務 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ CGコードに則った、ガバナンスの更なる強化 ➢ <u>自己資本比率の向上(10%以上)、多様な資金調達手段の確保</u> ➢ <u>プライム市場への指定替え</u> ➢ <u>IR専門家の執行役員を新たに起用</u> ➢ ディスクロージャー充実・強化(TCFD、英文開示等) ➢ 知名度向上を目的としたPR戦略 |
| | IR広報 | |

株主還元策について

- ◆ 2021年12月31日を基準日とする剰余金の配当(中間配当)について、株式分割前の株式数換算では1株当たり配当金9円に相当する1株当たり3円とし、前中間期より増配
 - ◆ 期末配当は未定としていますが、特段の事情がない限り、通年以上の配当を検討しております(インカムゲイン)
-  企業成長、経営努力、資本市場の評価改善により、株主の皆様へキャピタルゲインによる株主還元を強化して参ります

| | 決定額 (2023年6月期中間) | 直近の配当予想 (2022年8月15日公表) | 前期実績 (2022年6月期中間) |
|----------|---------------------|---------------------------|----------------------------|
| 基準日 | 2022年12月31日 | 同左 | 2021年12月31日 |
| 1株当たり配当金 | 3円 | 未定 | 8円 (普通配当7円) (特別配当1円) |

自己資本比率に関する当面の推移について

- 当2Qの自己資本比率は、6.8%
 - 緩やかな改善傾向にあります。
 - なお、ROEは17.4%と高い水準を維持(2022/6期)

【自己資本比率の推移/見通し】

- 22年9月末の自己資本比率は5.4%まで、一時的低下
- 22年12月末は、6.8%まで改善
- 23年1月、14億円の増資による資本増強
- 太陽光パネル製造事業、グリーンエネルギー事業を軸に、利益剰余金の増加を図り、自己資本比率10%以上を目指します(→重点施策の一つ)

【免責事項】

- 本資料に記載の情報は、経済・社会の情勢及び当社グループが合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しておりますが、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料において提供している情報は、「今後の見通しに関する情報」を含んでおります。それらは、現時点における当社グループの見込み、予測及びリスクを伴う一定の想定に基づくものであり、実質的に当該記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含み、計画等の実現を保証するものではありません。
- リスクや不確実性には、一般的な業界、市場の状況、金利、為替変動等の国際・国内の経済状況が含まれます。ベトナム VSUN 社において新設した第4工場が順次稼働しておりますが、今後の生産能力の増強や様々な要因に基づくサプライチェーンに与える部材・製品の輸出入への影響、その他市場の為替変動等により、実際の連結業績は今回の通期見通しと異なる可能性があることをご了承願います。

【お問合せ先】

Abalance株式会社

IR広報室

<https://www.abalance.jp/contact/>

* 当社Webサイトのお問合せより、「業績・決算・IR」をプルダウン選択